

- 1 日 時 平成31年3月20日(水) 15:00～17:00
- 2 場 所 福島市役所4階庁議室
- 3 出席者 佐藤 滋 委員長、㊦本杉 省三 委員、西田 奈保子 委員、門田 敦嗣 委員、
中村 芳朗 委員、三瓶 章 委員、㊦後藤 忠久 委員、吉田 秀政 委員、大関 宏之 委員、
竹田 有理 委員、齋藤 美佐 委員、山崎 由美 委員、小林 静香 委員
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 委員長及び副委員長選出
 - (3) 議事
 - ① 委員会の役割と検討課題等について
 - ② 福島駅東口地区市街地再開発事業(仮称)について
 - ③ 今後の進め方について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6 委員の主な発言

○委員長 パルセいいざかの稼働率等を教えていただきたい。

○事務局 パルセいいざかには約1,940席があり、主にコンサートや音楽イベントを行う施設として機能している。平成27年の稼働率は12.2%である。施設内には会議室2室、楽屋2つ、ホワイエ等を有している。施設は市が所有している。

○委員長 本日の委員会は初回のため、具体的な結論等ではなく、まずは委員の皆さんのご意見を伺い、それを参考にして事務局が次回案を作成するという流れを想定している。後ほど再開発準備組合が現時点で考えている事業内容を説明した後、委員の皆さんから一人ずつご意見をいただきたい。

○委員 福島県立医科大学新学部が隣接し、コンベンションホールと消費者・来場者が消費、宿泊等をする施設が1か所に集中することに意義を感じている。また、本事業の立地は駅の目の前で、パシフィコ横浜や神戸のコンベンションと似たようないいところにあると思う。ここで2つのポイントを感じている。1つは、誰をターゲットにするかである。隣接地に福島医大新学部が整備されているということで、医学系の学会・研究会・催事等を主催するであろうと思われる方が明確にそこにいる。もう1つは、参加者が遠くに移動しなくて済むことである。仙台で開催された学会の経験から見ると、参加者が会場に来るための工夫、そして会場から移動せずに済むほうがよいという要望がよく主催者から出てくる。そのため、この2点は素晴らしいと思っているので、最後までこれらの点を譲らないほうがよいと思う。

質問だが、多目的ホールの広さはどのくらいを想定しているかを教えていただきたい。仙台国際センターは、平成27年頃に新しい展示棟を国際会議棟の横に建てた。一番大きい展示ホールは3,000㎡程度だが、主催者である東北大学や日本の各大学の先生から、3,000㎡は非常に中途半端な大きさと言われた。そこで、どのような会議・コンベンションを想定しているかによるが、1,500～3,000人を収容するには2,000～3,000㎡の広さが必要であり、また、大会議場、分科会・展示会場も必要となる。そうすると、3,000㎡で当て込むのが難しい。ただし、仙台の場合は、ホールを5分割できる点がよい。受付等としても使うことができ、3,000㎡に適した使い方の提供

はできる。本事業では、医学系学会と研究会と同時に開催するときに、展示場はどのくらい
の広さが必要か、そしてサポートしてくれる民間企業の出店スペースがどのくらいか、
ということは、最後までよく検討したほうがいい。

○組 合 多目的ホールの面積は、今後、変更する可能性も十分あるが、現在は約2, 200㎡を
想定している。医学系の学会が開催された場合、展示スペースも必要だと思うので、今後
はこの問題を念頭に置きながら検討していきたいと思う。

○委 員 2, 200㎡であっても、主催者規模や使い方次第で対応できると思う。また、アトリ
ウムとホテルも併設しているのは強い点だと思う。神戸の場合は、国際会議だと、ほとん
どホテルの中の会議室を使っている状態である。ただし、神戸では医学向けの施設を建て
るという方針を持っていて、コンベンションビューローもそれに合わせて動いている。本
事業は、福島医大と隣接することもあるので、学部・学科を中心に施設の運営を考えてい
くこともよいのではないかと。

○委 員 コンベンションのコンセプトとしては、鑑賞や公演を中心に持つてはいるが、文化芸術
のとらえ方が、これまでの概念には収まらないところもある。高齢少子化のなかで、文化
芸術はどういう役割を果たしていくかを考えると、観光、まちづくり、国際交流、福祉、
教育、産業等と一緒に文化芸術を考え直さないといけない。従来のような考え方で
は文化芸術が孤立してしまう。福島市も横のつながりを重視して、このような全体の広が
りの中でコンベンションにどういう役割を果たさせていくのかを明確にしていくべきかと
思う。その方が、マーケティングやブランディングの方向性も打ち出しやすくなるのでは
ないか。

○委 員 商店街側としては、本事業のホールは、通りに日常的な生活や商業があるところに立地
するコンベンションのホールなので、稼働率を高めていただければいいと思う。例えば、
音楽イベント等は、平日での開催が考えにくい。駅前通り（メインストリート）にあるの
で、再開発事業の中で商業機能はあるが、それに加えて、日常集まってくる方々と、コン
ベンション施設を使用する市民等が、ともに使いやすい施設にしてほしい。

○委 員 現在、市の観光案内所を拡充していて、事務所機能は少し離れているところに借りてい
るが、事務所機能がこの施設に入れるといいと思う。

本施設が完成した後、来客誘致や、まちの力に変えることこの先頭に立たねばならない
組織を束ねる者としての意見だが、イールドの考え方（イールドマネジメント）として、
平日と休日の平準化を重視する必要がある。現状では、休日のイベントはよく被ってしま
う。この場合、MICEは比較的早い時期に開催が決まって、会場を抑えているので、い
ざ市民が施設を使いたくても使えなくなってしまう。そのため、イールドをどのように考
えて戦略化していくのが重要なことだと思う。施設を整備したが平日はほとんど使われ
ないのであれば厳しい。

一方、エリアを考えると、医学系の学会等について、東北大学等旧帝大の吸引力はかなり
強い。震災後の復旧を踏まえて、福島医大も独特の強みがあると思うが、近い地域にあ
る東北大学等との学会誘致の合戦ではどのように特徴づけをしていくのかも一つの懸念。

つまり、時間軸問題（イールドマネジメント）と、エリアの問題（他地域との競合状態）
を踏まえて検討する必要がある。

○委 員 今回、福島駅前再開発事業と一体的にコンベンション施設を整備できる機会を得たこと
は、市にとって大きなチャンスであり、そのメリットの最大化と効果的な運営を図ること
が重要。一方、コンベンション施設の機能・構成・規模を検討するに際しては、地元にと
っての必要性に対応することに加え、今後予定されているものも含め郡山、仙台、山形と
いった周辺地域の競合施設に対して、どのようなポジショニングを意識して需要を獲得し
ていくかという観点も必要。どのような施設機能・構成・規模にするかによって、施設設
計・コストにも影響する。

周辺との関係では、賑わい創出、集客効果が期待される施設だと思うが、本事業のように、上階にホールで下層階に商業施設がある場合、ホールの利用がないときには動きのない空の箱ようになってしまう懸念もある。地元の方々が主導して、できるだけ人を回遊させ、常時賑わいを創出していく仕掛けづくりに取り組めるような施設内容、導入機能を検討する観点も重要だと思う。

また、現実には本委員会で検討する計画に沿った設計が実現できるよう、市は再開発準備組合と十分に連携を取る必要がある。

- 委員長 駅前通りはモール化をしている。地元からの意見では、完全モール化にする案や、トランジット・公共交通だけにして、まちに歩行者があふれるような構想等も挙げられる中、本整備施設では、やはり平面が大事だと思う。商業が1階にあるのは大事だが、コンベンション施設にとっても、1階の部分（まちの平面）とどのように繋げていけるかも大事。つまり、まちの平面とどのような関係にあるかが重要。設計上も、運営上も工夫する余地がたくさんあるので期待したい。
- 委員 本事業について、公会堂や市民会館機能を再編したコンベンション施設ということから、市民にとって馴染みのある施設として計画していると思う。外からの誘客も重要だが、平日に人が集まる場所と考えると、やはり市民に馴染みのある場所として利用できることが重要である。
コスト面について、イニシャルコストもランニングコストも含めて、受益者負担、公費（税金等）負担と収益性とのバランスが大事と考える。市としては、公会堂や市民会館的な機能を持つ施設として、現状、受益者負担と公費負担の割合をどのように考えているかを知りたい。例えば、公共施設等総合管理計画のなかで、関連する方針等があれば教えていただきたい。また、今後費用対効果等を考えていく中、負担割合について、どういう政策目的に照らし合わせて、どういう割合を考えていくか、はっきりとした基準を持って計画を作る必要がある。
- 委員長 先ほども言ったように、MICEを考えた場合、施設の予約は開催日よりかなり早めになる傾向がある。対して、市民が利用した場合、そんなに早めの予約は困ってしまう。また、市民が使う場合、利用料も安くすることになると思うが、そうすると税負担による持ち出しになってしまう可能性もある。これらの問題を考えると、運営要綱が非常に重要。市としては、他の公共施設の運営要綱を持っていると思うが、今後税収が減っている中で、どのように運営していくか考えなければならない。現状の運営要綱の課題と、それをどのように変えていくかについて、早めに着手した方がいい。
- 委員 ランドマークになるような駅前交流・集客拠点施設ができるのは喜ばしいと思う。福島市は車社会であり、駐車場の確保を重視してほしい。周辺の駐車場利用も考えていると思う。また、こういった大型コンベンション施設ができることによって、駅前周辺の交通状況（渋滞等）も変わると思うが、周辺交通へ与える影響について教えていただきたい。
- 委員長 駐車場の問題は、需要はどんどん出てくると思い、きりが無い気がする。昨年度の委員会では、都市内の移動をサポートするような、細かく循環的な新しいシステムを導入することによって、大規模な駐車場以外の効率的な交通改善策を構築することを考えていた。次回、具体的な案を出すときに、その辺を示していただければと思う。
- 委員 量的に考えることと、質的に考えること両面があると思うが、役割分担をしっかりと見定めて、方向性を探っていくのが良いのだと感じている。本事業としては、市民と行政の新たな関係性の構築や、市民としての新たな価値の創造を期待している。そのため、運営重視は外せない。運営をしっかりと見定め、捉えながら協議していただければと思う。
1点質問だが、資料P31の開発コンセプトのところ、今回の場合の「共創」の定義・イメージを教えていただきたい。

- 組 合 官民共創というのは、委員の皆さんが出した意見のように、運営面の重要性が非常に高いため、市民の方々に参加していただき、まちづくりをやっていきたいという意欲も込めて、官民共に創っていきたいというイメージで「共創空間」を使った。
- 委 員 参加はもちろん、参画もしていくということで、市民としては期待したいと思う。
- 委 員 昭和30年以前、福島駅前にマーケットが立ち並んで、すずらん通り（パセオ470）まで非常に賑やかな場所だった。道幅が狭いなかでコミュニティをはぐくみあってきた等、路面での人のやり取りによって幸せを感じる環境を作り出した。
現在は、駅前通りの景観条例に基づいてアーケードが外れて、人の活動範囲が1階からどんどん上に上がっていて、2階、3階に目がいった。つまり、建物の外観や、人から見たレベルでの建物内の活動状況等も意識している。現状では、3階にホールが配置されているが、1階からホールに至るまでの仕掛けづくりを考慮するほか、表参道ヒルズのような1階部分が画一的で立ち入りにくいファサードではなく、路上に人や物があふれだすことができる仕組みで、高層に住む人も簡単に降りて一般品を買えたり、来訪者もすずらん通りまで足を延ばして街を楽しめて過ごせたりするような、歩きたくなるような計画を期待している。
- 委 員 コンベンションホールを含めて、再開発全体に共通のテーマがあり、来場者・利用者につながるような統一感のある施設だとよい。
郡山市では、高校の音楽祭、合唱コンクール等を郡山市民文化センターで行ったことがある。本施設もそれを参考にして、学生や高齢者等幅広い世代の方々に平日中も使いやすい工夫をしていただきたい。例えば、大ホールの一部だけを使った場合、少し形を変えることで自然に使えるような流動的な施設であるとよい。
山形市では、霞城セントラルという、本事業の施設の立地・規模とも似ている大規模施設があり、駅から遊歩道でつながっていて、寒くなくアクセスできる点がよいと思う。本施設は福島駅とつながることは難しいかもしれないが、駅にいる方々が本施設へ足を延ばす意欲を高めるようなアクセスのよさも重視する必要があると思う。
- 委 員 現状はまちなかに人が住んでいない。現在栄町の夜間人口はおそらく20人以下であり、辰巳屋、大亀等自社ビルを持つ方しか居住していない。今回の再開発事業で予定されている賃貸マンションと分譲マンションが入ることによって、人の居住を誘致し、賑わいを創出できるかと、町会や商店街としても期待している。
また、ビルに入らなくても、路面から買い物ができる環境が欲しいという話があった。歩道に面して、路面からのアクセスができるという開放的なものを考えていただきたい。
去年のリニューアルにより通りがきれいになったが、イベントは減っている。例えば、今まで消防団の出初め式は毎年吾妻通りで行われていたが、歩道の幅員が広がり、車道が狭くなったため、山車を配置できないということで、去年の山車祭りは不評になった。みんなで知恵を出し合っていないと、せっかくきれいになった通りで、イベントしづらく、計画されない状況になりつつある。コンベンションホールと、駅前のフラットな平面をどうやってリンクさせていくかを考慮し、より活用しやすいスペースにしていきたい。
- 委 員 仙台の方は、コンベンション施設について、市と委員の方々がなかなか言い出しづらい環境であるが、音楽ホールはまだ議論されている。施設の老朽化という各まちにとって共通の問題を抱えているほか、大型イベント、会議、学会等はできるだけ早めに予約したいという要求もある。ただし、仙台では、国際センター以外はほぼ市・県の施設で、同じシステムで運営されているため、他のまちの人が利用しにくい仕組みともいえる。利用者が各施設をより分けて使うことで、ある程度にバランスはとれているが、国際センターを使いたい方から、予約期限が合っていないという相談がよく届いた。現状は、新しい施設を建てるより、施設の利用をどう高めていくかが重要視されている。
会議誘致、MICE全体誘致は当然やっているが、2018年度から、次の展開として、会議等での来訪者にまちに立ち寄ってもらって、お金を落としてくれるための政策を作ら

なければならないと思っている。それを考慮し、来訪者に立寄っていただけるようなまちづくり、道路づくりについても今後検討していただきたい。

○委員長 それでは、委員の皆様からのご意見は出揃ったところで、今後想定されているスケジュールが非常にタイトであることから、市の組織体制も機動的に対応されるようお願いし、第1回の会議を閉会する。